最終回

集中連載 新たな時代のODA

Official Development Assistance

平和の構築に大きく貢献する日本のODA

昨秋より展開している日本のODAシリーズ。最終回は、フィリピン共和国の特命全権大使、マヌエル・M・ロペス氏に登場してもらった。同国における貧困対策、インフラの整備、さらに平和の構築において、日本のODAが大きく貢献したことについて、ロペス大使は「日本のODA無しに、現在のフィリピン無し」と指摘する。そのうえで大使は、現在、経済発展を遂げつつあるフィリピンと日本の関係について語ってくれた。

セブ島北部の台風30号（アジア名：ハイヤン）被災地において医療活動に従事する自衛隊員　（提供：防衛省）

フィリピン共和国特命全権大使

マヌエル・M・ロペス

Manuel M. Lopez, Ambassador to Japan

台風「ハイヤン」に対して日本から多大な支援

――まず、日本の印象についてお聞かせ下さい。

美しい国だと思います。私の日本での生活は、他のどの国よりも幸福だと思います。私自身、また妻も素晴らしい経験をさせて頂いています。政府が私を日本大使に任命したことは、私にとって幸運でした。私は日本が大好きです。

――来日されてからどれ位になりますか？

もう間もなく四年になろうとしています。その間、東日本大震災と津波を経験しました。

――フィリピンは近年、台風による被害がありましたね。

災害については、私たちも日本人と同じ思いを持っています。不幸なことに、二〇一三年の秋、台風による大きな影響がありました。十一月八日の土曜日でちょうど、スーパー台風三〇号「ハイヤン」が来襲して一年になります(※十一月六日、インタビュー実施)。この災害に対し、各国から支援が寄せられましたが、日本は最も大きな支援をしてくれた国で、無償資金協力のみならず、自衛隊による医療支援を含む多くの支援をしてくれました。

貧困の緩和と平和へのプロセス

――日本が提供してきたODAの主たる内容はどのようなものでしょうか。また諸外国からの援助と比べ、何らかの特長があるのでしょうか？ASEAN諸国に対する日本のODAは、概して貧困の緩和や道路、橋、空港、学校、住宅などのインフラの改善に実際に役立っています。

フィリピンにおける日本のODAを特別なものにしているのは、ミンダナオにおける和平プロセスに貢献しているということです。ご存知のようにミンダナオにおきましては、ムスリム反政府組織とフィリピン政府との衝突が長年続いてきましたが、日本はムス

リム反政府組織とベニグノ・アキノⅢ世フィリピン大統領の率いる政府高官の和平協議のメンバーを日本に招待し、両者の触媒となって和平プロセスを支援してくれました。

私たちは、最終的には、天然資源が豊富であるにもかかわらず、フィリピンにおいて、最も貧困な地域であるミンダナオにおける和平を実現するでしょう。

私たちはこの地域における平穏な環境の継続を期待しています。

ミンダナオは今や開発が可能となり発展を遂げようと前進しているところです。

事実、今や日本企業は、この地域の農業分野、そしておそらく鉱業分野にも投資することが可能です。ミンダナオは鉱物資源がとても豊富なのです。このように、日本のODAをかけがえのないものとしているのは、この地域における和平への貢献です。もちろん、貧困削減への貢献も日本のODAの特長のひとつです。日本が我々に供与した多くのODAが貧しい人々の助けとなっています。

これまで、多くの貧しい人々は一日一食でしたが、現在では少なくとも一日二食、中には三食とれるようになった人々もいます。これは大きな改善です。また、かつては公有地を不法占拠して住んでいた人々がいました。こうした生活をしている貧困層の人々は、他に行くところがありませんでした。しかし現在では政府が貧困層の家族のために、小さいながらも平和な土地を準備しています。ここは移住した彼ら家族にとっての安住の地となっています。これは日本からの大きな支援がなければ成し得なかったということに、疑う余地はありません。

――教育についてはどうでしょうか？

貧困削減は、学校に通う子供達の教育の改善にも役立っていますが、ホームレスに対する食料、衣料、住居の問題が重要であるということを強調したいと思います。もちろん、教育における日本のODAの貢献は、極めて大きなものとなっています。

ハードの整備による生活環境の改善

――日本のODAに関して、現在のフィリピン経済への影響はいかがですか？

ご存知のように、現在のところフィリピン経済の成長力は中国を除くと、アジアの中でも最も強いのではないかと思います。近年、フィリピン経済は過去最高のGDPを達成していますが、これは日本からのODAに加え、海外、特に日本企業からの直接投資によるものです。日本企業はフィリピンの工場や店舗、プラントの建設に投資しています。これにより雇用が創出され、フィリピン人の生活の質が向上しています。

また、日本の投資を通じて、特に地方部において、フィリピンの多くの企業が道路を改善し、橋梁や空港を建設することが可能となっています。

現在では、地方空港に国際線が直接乗り入れることができるようになりました。

――日本のODAはどのようなところで見られますか？

日本のODAは、新しい空港、道路状況の改善そして農産物のためのインフラにも使われています。かつては農場から市場までの農産物の輸送が非常に困難でしたが、道路

円借款により完成したフィリピン中部のイロイロ空港の旅客ターミナルビル　（提供：JICA）

が改善されたことにより、農場から農作物の輸送が容易になり、大幅に時間が短縮されました。こうした農産物の価格は過去に比べ安くなりましたが、これは流通システムの改善によるものです。

また、気象予報システムも改善することができました。

ミンダナオ中部のマギンダナオ州において、草の根・人間の安全保障無償資金協力により職業訓練施設を建設。（提供：外務省）

日本のＯＤＡ無しに現在のフィリピン無し

フィリピンでは多くの雨が降り洪水をもたらす台風が毎年発生します。しかしながらＪＩＣＡの努力のおかげで、洪水の問題も徐々に改善されています。

――日本からのＯＤＡに対して、率直なご所感をお願いします。

率直に申し上げまして、日本のＯＤＡ無しに、現在のフィリピンは無かったと思います。

日本は多くの分野、特にミンダナオの和平プロセスにおいて我々を支援してくれました。長年に亘り持続的な和平を実現できなかった我々にとって、それはとても重要なことでした。

日本の支援により、戦闘を停止することができたのです。いまでは、人々は平和に生活しています。これはミンダナオに住む人々にとって、極めて重要なことです。いずれ多くの工場や企業が立ち上がり、人々の生活の質も更に改善していくことでしょう。

今日のフィリピンの経済発展は、日本のＯＤＡ無しには成し得なかったと思います。日本のＯＤＡにより道路や橋、空港等のインフラが建設されるとともに、日本企業のフィリピンマーケットへの進出も促進したからです。

――日本とフィリピンとの今後の友好関係やＯＤＡについて、希望、展望をお聞かせください。

私は、日本のＯＤＡプロジェクトを通じた支援の継続を心からお願いしたいと思います。ＯＤＡの資金はわれわれにとって非常に重要であり、今後とも長期に渡る支援の継続を希望します。

私が見る限り、日・フィリピン関係は、今、最良の時を迎えているようです。私たちは、フィリピンが非常事態にある時は必ず日本が支援に来てくれるのを見てきました。フィリピンの人々は日本政府、それに日本の人々が大変寛大であり、両国関係が極めて強固であると信じています。

――今後も、日本とフィリピンの友好関係が続くことを願っております。本日はありがとうございました。

◆